

図書館利用者と館長との懇談会

- 1 日時 平成23年11月12日（土） 15時10分から16時45分
- 2 場所 光が丘図書館 2階 視聴覚室
- 3 参加者 利用者 15名
区職員 4名
(光が丘図書館長、光が丘図書館事業係長、同子供サービス係長、同障害者サービス係長)
コーディネーター 元フジテレビジョンアナウンサー 小林大輔氏
- 4 次第 (1) 開会
(2) 光が丘図書館長あいさつ
(3) コーディネーターあいさつ・区職員紹介
(4) 懇談

図書館利用者と館長との懇談会 要録

1 光が丘図書館長あいさつ

図書館では、春には子供向け、秋には大人向けの事業に取り組んでおり、本日は秋の読書週間ということで、この前の時間帯で、小林大輔さんの朗読に渡辺欣三さんの尺八を合わせた大人向けの朗読会を行いました。十分にお楽しみいただけたのではないのでしょうか。

引き続きまして、この時間は館長との懇談会ということで、今年度は読書週間行事の一環として、テーマを決めて、図書館を利用する会の皆様方と一緒に取り組ませていただいています。

また、企画展示については、「東北」をテーマに先月末からモール展示を行っています。会議室では、利用者の会の皆様による展示も行っていますので、ぜひお帰りの際にお立ち寄りいただきたいと思います。

明日の午後には、様々な形で図書館に関わっていただいている方々の朗読や発表などを行いますので、お時間がありましたらぜひお越しいただきたいと思います。

さて、今回の懇談会を行うに当たりテーマを募集した際に、テーマ以外のご質問・ご要望もいただきましたので、その中で二つほどご紹介させていただきます。

1点目は、「練馬区にはなぜ中央館がないのか。」というご質問です。これはずっと課題でありまして、現在は光が丘図書館が12館全体の統括をしています。光が丘図書館は利用者は大変多いのですが、蔵書という面では他の自治体に比べてまだまだ少なく、中央館としては機能的に足りないのではないかというご指摘もいただいています。こうした点や

施設的な面についても、区としては重要な課題と思っており、光が丘図書館が中央館としてしっかり機能していけるよう取り組んでいるところです。

2点目は、友の会などのボランティア組織へのご質問・ご要望です。図書館はご案内のとおり、子供の事業や障害者サービス事業に大変多くのボランティアや団体の皆様にお力添えをいただいて成り立っている部分があります。

また、今回のように利用者の会と図書館が協働で事業を行うということが、これからさらに必要になってくるだろうと思っています。

今年はその足掛かりということで、これ以降は、もっともっと関わっていただける方の掘り起こしにも取り組んでいきたいと思っています。そうしたことから、友の会が核となり、それがだんだん大きくなって、皆様方が日頃取り組んでいる事業や、図書館でどんなことができるのかということと一緒に頑張って取り組んで、図書館が地域のより良い拠点として発展していけるよう、皆様のお力をお借りしたいと思っています。

また、施設面や蔵書面のご要望もいただきましたので、それらは今後の図書館運営に活かしていきたいと思っています。

それでは、改めまして今日のテーマをご紹介します。このテーマの決定に当たっては、光が丘図書館の利用者の会の皆様、さらには本日コーディネーターをお願いしている小林大輔さんにも加わっていただきました。「暮らしに役立つ図書館～図書館の楽しい利用法のアイデアを出そう～」という副題を付けまして、いろいろなご意見やアイデアをいただきたいと思っています。

それでは、小林大輔さんのご紹介をさせていただきます。

小林大輔さんは、練馬区桜台にお住まいで、フジテレビジョンの元アナウンサーということで、皆様方にはご存知で、大変懐かしく思い出される方もおいでになるかと思います。先程も朗読会を行っていただきましたが、数々の朗読活動をされ、朗読教室も主宰されており、広くご活躍されています。今回は、プロのアナウンサーとして蓄積された知識・技能をもとに、言葉の世界の伝道者であり図書館への熱い思いをお持ちの方でもいらっしゃるのです、コーディネーターをお願いした次第です。どうぞよろしくお願いいたします。

2 コーディネーターあいさつ・職員紹介

ただいまご紹介いただきましたが、私は決して図書館のことに精通した人間ではなく、時々図書館を利用させていただいている一区民に過ぎません。おそらくここにいらっしゃる皆さんの方が、図書館についての思いや利用頻度、改善のアイデアをお持ちだろうと思います。

そこで、まずは図書館の職員をご紹介します。光が丘図書館長、事業係長、子供サービス係長、障害者サービス係長の4名がいらっしゃいます。おおよそのことは、この4名から回答を得られるのではないかと思いますので、遠慮なくご質問をしていただきたい

と思います。

なるべくここにいらっしゃる皆さん全員からお言葉をいただきたいと思いますので、発言者は手を挙げてからマイクを受け取り、お1人でできれば2分位で発言していただければと思います。

さて、先程も私は朗読をしたわけですが、朗読をするときに一番問題になるのは、何を読むかということになります。私は退職後に図書館を利用するようになったのですが、窓口の職員はまことに親切に本を探し出してくれます。窓口の人たちは、大変本に対する知識がありますね。昔読んだ、誰が書いたのかも分からなかった「プップ島」という本を見つけてくれたり、著者は分かってもタイトルが分からないため内容を説明したところ、それは平岩弓枝さんの「青い幸福」という本だというように、不備な願いをしても一生懸命調べてくれて、まことに誠意を持って対応してくれる。私はこの窓口の親切さをみて、練馬区役所のどこよりも一番親切なのは図書館の窓口ではないかと思うことがあります。

私はその程度の利用しかしていないため、図書館というのはなんとも便利なものだな、親切な窓口の人たちがいるのだな、と思うわけですが、今日ここにいらっしゃる皆さんは、いろいろな思いがあると思いますので、皆さんの体験からくる「こういうことがあった。こういうのはどうか。」というようなことを遠慮なくおっしゃってみてください。

3 懇談

利用者 図書館で本を借りて近くの小学校や地区区民館などで読み聞かせを行っていますが、先程の小林さんの話を伺って、ただ本を借りて帰ってくるだけでなく、職員の方もっとコミュニケーションをとって、利用させていただけたらいいなと思いました。

小林氏 私は、窓口の人が親切な対応をしてくれるかどうかは、多分に、窓口を訪れた区民側の態度も結構あると思うのです。向こうも人間ですから、高圧的に「おい本貸せ」みたいな感じでは警戒するでしょう。こちらが丁寧に応じれば向こうもそれ以上に丁寧に応じてくれますからね。

読み聞かせをなさっているということですが、とっておきの本を教えていただけますか？

利用者 「たっちゃんのながぐつ」という絵本で、たっちゃんが長靴をなくしても、大人がすぐに叱ったりせず、見守りながら子供を育てているという本です。

小林氏 そうすると、むしろ子供たちよりもお母さんに読んであげる方がいいのかもしれないですね。

利用者 そうですね。お母さんたちにお勧めしています。

小林氏 ありがとうございます。それでは次の方いかがでしょうか。

利用者 よく団体貸出を利用していますが、今までは職員の方から声をかけてもらえたり、いろいろと本について教えていただきましたが、カウンターが委託になり人が変わったりするので、なかなかそういうコミュニケーションが取れなくなっています。職員の方とは図書館事業のおはなし会を一緒に行ったりする中で関係を築けていたのですが、それができなくなっています。団体貸出自体を理解していない人も多くて、借りるときに何回も説明する必要があるたりするので、きちんと引き継いでほしいと思います。

小林氏 窓口は業者に委託しているのですか。区の職員がやっているのではなく。

図書館 区立図書館は12館ありますが、1館が指定管理者館ということで運営自体を民間事業者が行っています。それ以外の11館は、窓口業務等の委託を平成18年度から3か年かけて導入してきました。それまでは、区の職員が直接その業務を担っていたのですが、効率的な運営ということで、民間でできることは民間にという整理で委託化をしてきたものです。

ですので、カウンターの職員がそうした業務を理解していないということであれば、区としても反省してきちんと指導していかなければならないと考えています。

利用者 カウンター業務を委託したことで、子供たちと図書館の職員の間、線が出来てしまったような気がします。委託職員は本を並べたりとかそういう業務はできても、一体どの程度児童書について理解しているのか、その辺がこれからずっと委託になっていった場合に、どうなっていくのだろうかという不安があります。

小林氏 委託というのは、知識が乏しかったり勉強をしない人を窓口に出してしまうということなのでしょうか。委託ならば、それらに精通した人たちが窓口に配置されるということにはならないのですか。

図書館 そういった部分で、区の指導や監督の必要性を本当に感じています。

今年度から石神井図書館と小竹図書館では、平日の一部ですが区の職員がカウンターを始め図書館業務に携わるという形を作りました。これは、区の職員が実務を知らないということでは、委託事業者の指導・監督ができないだろうということで、区としてそういう仕組みを作ったものです。

委託を進めながらも、見直すべきところは見直していくことが必要だと考えています。

小林氏 分かりました。では次の方どうぞ。

利用者 利用者のマナーが悪くなったと感じています。具体的には、書き込み、マーカークライン、破れ、切り取りなどですが、書き込みが一番酷いので、見付けた場合は返却の際に申し出たりもしています。

返却の際に係の方が状態のチェックをしています。その時点で注意できない

のですか。また、そういう場合はペナルティ的なものがあるのでしょうか。それから、利用者のマナー向上について、図書館側でPRなどはしているのでしょうか。

図書館 返却の際に確認はしており、水濡れはすぐに分かりますが、書き込みを全て見つけるとするのは難しいのが実情です。見つけた場合にはその方に確認し、ご自分でやってしまったということであれば、弁償していただくことになっています。

マナーの問題はなかなか難しく、非常にお叱りをいただくところでもあります。図書館としては、ポスターを掲示したり、実際に汚されたり破られたような本の写真を一緒に掲示するなど、マナーアップを呼びかけています。どうしても利用者の皆様に頼るしかないものではありますが、より一層アピールをしていきたいと思っています。

小林氏 分かりました。では次の方にまいりましょう。

利用者 民間委託について、私は皆さんと違って頑張っているなと思っています。民間委託というのは世の中の宿命だと思うのですが、今日この場にどなたも民間委託の職員の方がいらっしゃらないのが残念です。今、光が丘には区の職員は誰もいないのでしょうか。

図書館 区の職員は、時間帯によりますが相談カウンターに入っています。

利用者 相談カウンターは、委託でも比較的分かりやすい、調べてくれる職員もいます。あそこは知識の深い人に固定してやってもらった方が、そういうことに対応できるのではと思います。

それから、館内の端末で検索する際に、最近購入した本とか最近貸出が多い本を検索すると、ジャンル分けが広すぎて対象の本が何百冊と出てきてしまうので、何か改善の方法はありませんか。

図書館 システムに関しては、来年以降新しいものに変える予定もありますので、その際には皆さんからいただいた意見を取り入れる努力をさせていただきます。

小林氏 検索の改善は、これからもどんどんしていかなければならないのでしょうか。では次の方どうぞ。

利用者 話題の本を予約すると1年半以上たってやっと借りられるような状況ですが、マイナーだと思われる本については、予約をすると大抵購入してくれて借りることができます。この辺りの仕分けや需要予測はどのように行っているのですか。

また、区全体の予算や、もっと社会福祉に回した方がいいのではないか等のいろいろな意見がある中で、今後図書館がどうなっていくのかということについて興味があります。

図書館 23区では、各区の資料費や登録者数、予約件数等の統計をとっています。練

馬区は予約件数でいうと23区で1位になっています。資料費は2位ですが、練馬区は人口が71万人になろうという状況ですので、区民一人あたりの所蔵冊数は下から3番目となっており、長期計画では、平成26年度までに2.35冊にすることを目標としています。

小林氏 蔵書としては貧弱ということですか。

図書館 蔵書数としてはいいのですが、区民一人当たりとなるとまだまだ少ないという状況です。

区の予算は大変厳しい状況で、資料費についてもどうなるかというところがあります。福祉施設が優先されるとしても、図書館も設備的にはかなり厳しい館もあり、大規模改修が出来ないために修繕をしながら何とか対応しているというところもあります。

そうした中で、今後図書館をどうするのかということですが、一つは、「こどもと本のひろば」という乳幼児から小学校低学年までを対象とする南大泉図書館の分室を建設します。

また、貸出・返却窓口の設置も長期計画事業に盛り込んでおり、この10月には豊玉リサイクルセンター内に受取窓口を開設しました。総合教育センター内の受取窓口のご利用も大変多く、こうした需要があると考えており、石神井公園駅付近の高架下や大泉学園駅北口に建設予定の再開発ビルにも、受取窓口の設置を計画しています。

今後の展望としては、図書館自体は増やせないけれども、そういった工夫をしながら、もっと使いやすい図書館を目指していくということで取り組んでいます。

図書の需要については、非常に難しいところがありまして、新聞の書評やテレビでの紹介などにより、あっという間に予約が10、100という単位で増えていきます。そうした場合は、当然複本といって同じ本を何冊も買うわけですが、買いすぎるとブームが終わった後に、本棚にその本がずらっと並ぶことになります。そのため、あまり買いすぎないように、といってあまりお待たせしすぎないようにというところで、なるべく偏らずに本の数も種類も増やしていくようバランスを考えています。

小林氏 では次の方にまいりましょう。

利用者 図書館はどんな本でもあるのが一番いいのですが、自分の考えとしてはベストセラーは自分で買えばいいと思います。買わないで借りるのであれば、何か月後でもいいと思うのです。

ただ、ベストセラーをすぐに借りて読みたいという人もいるわけなので、一つの方策として3週間も貸すのではなく、半分や1週間でいいと思います。

このタイプの本は1週間の貸出です、というやり方をなぜやらないのか。そう

すれば、同じ本を何冊も購入する必要はなくなるのではないのでしょうか。

それから、先程回答にあった窓口とか建物とか箱ものはもう増やさなくていいです。そういうものを増やす位ならベストセラーを買ってほしいし、そうでなくむしろ保育園をつくってほしいと思います。優先順位が違うと思います。

それから、窓口の人たちはみんな親切ですが、どちらかというと結構横柄な利用者が多いと思います。それに対してスタッフの人が「すみません。申し訳ありません。」と言いながら対応をするのが非常に嫌いで、利用者もスタッフも同じ人間なのだから、いちいち謝らないでほしい。きちんと親切に対応するけれども謝らない、ということを今日以降ぜひやってほしいと思います。

それから、今日の行事をどんなふうに宣伝されているのかと思って来てみましたが、残念ながらのぼりも垂れ幕も大きな広告版ありませんでした。図書館でこういうことをやっているということを、いかにして光が丘に来ている沢山の人に知らせるかということで、どうもお役所関係の人は宣伝不足というか、宣伝しようと思わないというか、そういうことを感じました。

利用者 それに関連して、この会について館内放送があり、それを聞いて私は来たのですが、2階で委託スタッフに聞いたところ場所が分らないと。委託の人に私は比較的好意は持っているのですが、これはまずいと思います。それにたしかに宣伝も足りないかと思います。

小林氏 私からも、これは前から申し上げたのですが、先着50名という募集の仕方は良くないですね。先着何名というと、せっかく並んでも入れないかもしれないから、それなら最初からやめようということもあるわけです。入場券を往復はがきで申し込むという形であれば、明らかに手元に入場できる権利ができますから、もちろん定員を超えてしまえば駄目なわけですが、何かこのあたりの工夫は必要ですね。

図書館 広報に関しましては、誠に申し訳ございません。公園にいらっしゃっている方、図書館に来ていない方へのPRも、チラシを工夫して貼るなりはしたのですが、来年度以降は来ていただくための方策をもっと積極的に取っていかうと考えています。

小林氏 先程ベストセラーの貸出期間を短くするというご意見が出ましたが、私も全面的に賛成です。とてもいいアイデアですね。このご提案についてはどうでしょうか。

図書館 ベストセラーに限らず、貸出期間が3週間では長いという方もいれば、2週間では短くて嫌だという方もいて、いろいろとご意見のあるところです。

ベストセラーだけ、特定の本だけ期間を変えるというのは、システム上難しいところもありますが、予約で1週間も取り置かないでどんどん回転させてほしいというようなご意見もあり、何かいい方法を研究していきたいと考えています。

小林氏 分かりました。では次の方どうぞ。

利用者 図書館では新刊書をどのように購入しているのですか。皆様方のお話だと、予約をすれば買っていて、借りられるということですか。新刊書を購入する基準を教えてください。

図書館 新刊書ではいくつか方法があります。まずは、書店が出版された本を図書館に持ってきますので、その中から、図書館に必要かどうか、あるいは何かの受賞作だとか書評に載っていたという、先程お話がありましたように予約が増えますので、そういった本を購入するということになります。

それから、書店が持っていない本については、図書館側から注文をして購入するというようになります。

さらに、皆様から予約をいただいて、今後図書館としても貸出が見込める、図書館に必要な本だということであれば購入をします。予約をいただいても必ずしも購入するということではありません。例えば、23区の他の図書館や、都立図書館から借りてお貸しするということもあります。新刊に限らず読みたい本がある場合は、ご予約いただければ、何らかの方法でお貸しできるよう対応しています。

小林氏 本日は参加者の中に書店の店主さんがいらっしゃいますので、お話を聞いてみましょう。書店さんにとって図書館というのはどういう存在でしょうか。私のように定年退職後は本を買わずに図書館を利用するという方が多いようですが、そうすると図書館というのは商売敵かなと。その辺りをどうぞ遠慮なくお話しください。

利用者 書店代表ではなく私個人の意見としてですが、図書館というのは、地域にとって非常に大事なものだと思います。いい蔵書、いい交流の場、情報の発信源。図書館というのはそういう知識の結晶ではないかと思うのです。

先程の、ベストセラーは自分で買いなさいというご意見は、これは大変嬉しいことです。

それから、3歳以下の子供の親ごさんには、図書館から借りるのではなく、自分で本を買って、子供のためにその本をストックしてもらいたいのです。子供の知恵の力はだいたい3歳位で決まりますから、そういう絵本というのは非常に大切なものだと思います。読み聞かせをやっていらっしゃる方に、参加する幼児の親子に対して、そういった点についてどう思っているのかお聞きしたいと思います。

小林氏 どなたかいかがでしょうか。

利用者 そうですね。たしかに小さい子や、その子のための本はあった方がいいと思います。うちの子供の場合は、どの図書館に行っても同じ本を借りるので、そんなにその本が好きならばと思い買っていました。図書館に子供を連れて行って、子供がどんな本が好きなのかを見て、子供が選ぶ本を買ってあげれば、その子にとってきっと心に残るし、その本との出会いなのでそれはいいことだと思います。

小林氏 では次の方にまいりましょう。

利用者 先程システムの問題が出ましたが、私は予約が入った数で3段階位に分けてやるのがいいと思います。来年検討を始めると言われたので、それに向けて話し合いの場をぜひ設けていただきたいのです。利用者アンケートでも貸出期間を短くするかどうかとか、いろいろな意見があったと思うので、それらの意見を吸収するために、職員と実務的な話し合いができる場をつくっていただきたいのです。

もう1点は、今回の震災対応についてですが、3月11日に地震が起こって、12日に爆発が起きましたよね。それで13日に図書館が休館してしまってから、明日は開館するようにメールで請求しましたが、型どおりの対応しか戻ってきませんでした。インターネットで周辺自治体を調べたところ、時間などの細々とした対応はいろいろありますが、ほとんど次の日からは開館していて、1週間休んだのは練馬区だけでした。職員にいろいろと尋ねてみましたが、本やCDが棚から落ちた程度でそんなに被害の情報はあがっていないというのです。その状況を見て、なぜ練馬区はそこまで慎重にならなければいけなかったのかということをお聞きしたいのです。

もう起こってしまったことは仕方ありませんが、今後直下型地震が起こる恐れもあるので、早々と撤退するのではなく、各館の状況を見て判断して、開館してください。図書館は情報のパイプなのですから。

小林氏 その点について伺いましょう。そんなに慎重にお休みしてしまったのですか。

図書館 3月11日は金曜日でしたが、各館の状況を把握したところ、利用者の方には被害はなく、いくつかの図書館で棚から本等が落ちたという状況がありました。

利用者 その状況で、なぜ次の日から開館しないのですか。

図書館 次の日は一日休館し、その翌日の日曜日は開館しました。練馬区では危機管理対策本部が立ち上がりまして、そこで、区立施設の状況や開館するかどうかを検討し、区の方針として他の区立施設と同様図書館も休館したものです。

利用者 だから、状況を見て、もっと独自に判断してください。

図書館 区全体の方針として、図書館だけ開館するという判断は認められなかったということです。

利用者 帰宅難民の方は、体育館とかを開放しましたよね。ですから、建物が壊れる恐れがあるから閉めたって問題ではないわけですよね。

図書館 区全体の方針として決定し、それに従ったということです。施設には見えるところだけではなく、設備的にもいろいろと機械が入っていますので、あれだけの震度であり、そういった面からも判断する必要がありました。

利用者 だから、次回からは、状況を見て的確な判断を行ってください。本が10冊落ちた位なら開館するということを判断してください。

ライフラインの情報のパイプとして、図書館が機能してもらわないと困るのです。

図書館 いろいろお調べになりたいということですね。

利用者 インターネットとか新聞の情報では、今回、皆さんも感じているだろうけれども、嘘ばかりですよ。ですから、図書館には、チェルノブイリの時代のちゃんとした本があるから、それを見たりする必要が今回の場合はあったのです。だから、そうした状況をよく判断して、独自の判断でもいいので行ってください。開館時間についても。

図書館 開館については、いろいろなご意見をいただいていますので、そういうことが起こらないのを祈るばかりではありますが、そうしたところの判断というのは、今回を踏まえてやらせていただきます。

利用者 よろしくをお願いします。生活がかかっているのですから。

小林氏 私も実は発言者として提案したいことがあります。先程朗読会をやらせていただきましたが、これは図書館にもっと親しんでもらおうというサービスの一環になる行事だと思うのです。子供に対する読み聞かせというのは、ここにいる皆さんもやっていらっしゃるわけですが、私は活字を読むのが負担になってきたというような年代の方などに、朗読したいと思っています。練馬区には図書館が12館あるので、毎月1回ずつ、私がそこへ行ってボランティアで朗読をするというのはどうでしょうか。

そこをお願いしたいのは、私だけ張り切っても仕方がないので、例えば今回は貫井でやりますよという広報は図書館で行い、貫井を取り巻く人たちに呼びかけて集まってもらい、当日椅子を並べたり受付など、私と一緒にボランティアをしてくれる人がいれば、先程館長がボランティアの方々をぜひとも友の会として組織したいとおっしゃっていたので、そういうことをやらせていただけませんか。

私と一緒にボランティアでやってくれるという方もこの中にはいらっしゃるの、その方のご意見を伺いましょう。

利用者 私は、本日の会の共催者である利用者の会の一人です。皆さんから非常に前向きなご意見を出されましたので、ぜひとも私どもと一緒に、図書館をよくしていくために区民の声を図書館運営に反映して、一緒に活動をしていただきたいという気持ちでいっぱいです。

小林さんから、ボランティアで各館に出かけて行って朗読をしてくださるというご提案がありました。

マナーの問題も出てきましたが、そういうことも、もっと友の会で皆さんに啓発してやめていただく。区が言うよりも、利用者で解決できることもあると思います。そういうことを友の会で実現していければと思うのです。

今後、利用者の会と共催で行事などを行うようなときに、住所・氏名をいただければご連絡させていただきますので、個人情報の問題で無理にはお勧めできませんが、ぜひそうしていただければ、もっと活動が広がるだろうと思います。

宣伝が下手だという話も出ましたので、友の会に入ったりお名前をいただいた皆さんには、今回のような場合はチラシを何枚かお送りすればご近所に配るなどできて、宣伝や口コミで広まれば、もっと参加者が増えていくのではないかなと、私は提案したいと思います。

小林氏 ありがとうございます。広報のご意見をいただきましたがいかがでしょうか。では、次の方どうぞ。

利用者 私は、はっきり言って練馬区の図書館には満足していません。去年の4月30日の新聞に、『ある区では、毎日平均3,300人が訪れる。朝10時に開館するときには100人の人が並んでいる。夜も10時まで、240席の席が満杯だ。』という記事が出ていました。こういう図書館があるのです。練馬区にありますか。

私はこの間、この会に出るために、資料をもらいに東京都の中央図書館に行ってきました。千代田区の図書館にも行ってきました。非常にきれいで明るくて静かです。豊島区の図書館もそうです。北区の図書館も昔の施設を利用してそのまま使っていますが、きれいです。そういう図書館が練馬区にないのが非常に残念です。

図書館というのは、本があるから利用するだけではなくて、情報の発信拠点なので、そういう図書館が役立つのであって、そうでなければ役立ちません。

私が主に使うのは春日町の図書館で、毎日行っていますが、新聞を見ようと思っても1時間も返ってこない、今日の新聞なのに破れている、そういうことが多いです。大分静かになってきたのは良い傾向だと思います。

ただ、相変わらず居眠りをしている人もいるようで、これも新聞を見ると、居眠りしてもいいという論も、当然指導すべきだという論もあり、どちらがいいのかは考えていただきたいと思います。

それから、アイデアを出せといいますが、練馬区はやる気がありません。私が出したのはコピーの件ですが、今コピーはA3を除くと白黒だと5円でやってくれるところがあります。楽しくて役立つ図書館だというのは、5円のコピー位やってもいいのではないかと思います。

それから、図書館内だけで見てください、お貸しできませんという資料の場合、私はカラーでコピーを取りたいけれどできません。区長への手紙でも出して「検討します。」という返事をもらっていますが、もう2年位経っています。ですから、検討していないのではないかと。検討するというのはやらないということだと言われていますから。

非常に厳しいことを言いましたが、ただ、ここにきて感謝したいのは警備員の方です。この間、一生懸命本を探していたところ、練馬区の図書館は書架が高く、踏み台を使わないと探せないのですが、先程言った図書館は大体目の高さのところにあるので、台を使わなくても取り出せます。それが当たり前だと思うのですが、まだまだ練馬区の図書館はそこまでいいっていません。

そうしましたら、警備員の方が親切に踏み台を出してきたので感心しました。練馬区の図書館でこういうサービスを受けたのは初めてです。

言いたいことを言いましたが、もう少し改善してほしいところがいっぱいあると思いますので、苦言を呈しました。

小林氏 図書館に通じていらっしゃるようですので、改善すべき点をもっと伺いたいところですね。

では、そちらの方はいかがでしょうか。

利用者 先日、春日町図書館のギャラリーで、私を始め読者が100文字で本を紹介したものを掲示する事業があり、素晴らしいなと思ったのですが、中には鉛筆書きのようで薄くて読めないものがありました。こういうことを発言してしまうと、結局職員の人がそれを活字に変えるか、最初から濃く書けるもので書いてもらうかしらないといけないのですが、とにかくだんだん天井に近い方になると全然見えない状況でした。せっかく皆さんがこういうふうに応援して、図書館としても直筆の方が効果があるという考えではないかと思いつつも、全然読めないというのは中途半端な感じでした。

もう一つ、入院のための心得のような本を借りて、すごく参考になったという話を聞き、私も去年病気したので、後からではありますがその本を借りに行きました。どの位そういう本があるのかなと思いましたが探し出せず、調べてもらったところ全部で4冊あり、そのうちの1冊を借りましたが、コンパクトに書いてあって分かりやすかったです。

こういう本は本当に暮らしに役立つというか、図書館を利用するのにこういうレベルの本も置いてあると、一般の方が利用しやすいのではないかと思います。医学書の病気に関する本はたくさんありますが、その手前の説明があるのは患者本人も付き添いの方も、とても心構えができるのではないかと思います。

小林氏 今日参加されている書店さんも、調べものをするのは図書館、それから新しい本を求めるのは書店だと、それを棲み分けているとよく言っていると思います。では次の方どうぞ。

利用者 私は普段は平和台図書館を利用しているのですが、今日この席に懇談会のチラ

シが置いてあり、私はこれを初めて見ました。今回は、光が丘の読書週間記念事業ということで開いている懇談会ではなく、区民全員に呼びかけている懇談会だと思うのですが、平和台ではこのチラシを見ていません。

区報には懇談会があるという記事が載りましたし、図書館だよりでこういったテーマを持った懇談会を今回初めて行うというのを知りました。暮らしに役立つ図書館、図書館の楽しい利用法云々という、こういうことで今まで懇談会が開かれたことはなかったと思うのです。それで、これだけの席を用意していただいているのに参加者が少ないし、いつも少なかったというのももったいないなと。せっかく館長以下職員の方からお答えをいただくのに、そこに参加している人数が少ないというのは、とてももったいないとも思っていました。

今回各図書館で東北を取り上げて、いろいろなテーマ展示みたいなことをしているようですが、近くの図書館に行くのが精一杯という方がほとんどではないかと思うのです。

こういった、館長と直接対して図書館側からお話を聞く場というのは、今まで地区、地区でそれぞれに行っていましたが、今後、こういうテーマ性を持ったことで、これからの懇談会をやられていくのかお聞かせください。

それから、ずっと話が出ていた委託の問題ですが、それは賛成も反対もいろいろあるとは思いますが、図書館で今までずっと努力されてきた専門員さんが窓口に出られないという嘆きの声を私達は直接聞いています。窓口に出て区民の要望を聞いて、それに応えていくのが自分達の仕事なのに、委託が入ってきたことでそれが出来なくなると、すごく悔やんでいます。これも本当にもったいない話だなと思います。一番力のあるそういう方たちの力が出せない図書館というのはどうなのかなと、最近とてもいろいろなところで感じます。区としては、できるところは民間の力でということで、もちろん上回るような民間の力であればそれは素晴らしいとは思いますが、果たして全部の図書館が、今まで専門員さんなり図書館に従事していた方たちが、ずっと築いてきたものを壊していないのかというのが、とても気がかりです。この辺は十分考えていただきたいと思っています。

今すぐ返事をということではありません。これからもっと指定管理者などが入っていくと思いますので、それを導入していくことについて、本当にこれでよいというところまで考えていった上で進めていただきたいと思っています。

小林氏 ありがとうございます。では次の方をお願いします。

利用者 皆さんからいろいろと細かい要望やいいアイデアが出されましたので、私は簡単に済ませたいと思います。

システムを作り直すのであれば、検索の際に、例えば原書が「エミーリア」と

いう「リー」を伸ばすところを、「エミリア」と入力すると出ないので、そういうのは誤差としてどちらでもヒットするようにしてください。「柳田國男」の「國」も旧漢字を入力すると出ないのですが、正しいものを入力しても出ないのはおかしいので、ぜひ改良してほしいと思います。

もう1点は、今は館の職員は土日を休みにして、月曜日は休館日でも出勤しています。月曜日に職員に連絡したいと思っても、図書館は休館日なので電話に出ません。今回のような事業の打合せをしたくても、出勤しているのに連絡ができず、苛立たしい思いをしましたので、この辺りも緊急の場合の連絡先を教えていただければと思います。

小林氏 今のは簡単にできそうなことですよ。

図書館 「柳田國男」さんの「國」はどちらでも検索できると思うのですが、本によっては難しい字で書誌情報が登録されていたりします。それをどちらの字でも検索できるように、いろいろご指摘をいただく度にその都度直しています。これについては、直せる範囲でどんどん直していきますので、ぜひおっしゃってください。電話については、大変申し訳ありませんでした。

小林氏 これで、全員の方にご発言いただきましたでしょうか。それでは、最後に館長から皆さんにどうぞ。

図書館 本日は、長時間にわたりお付き合いいただきありがとうございます。これまでいただいたご意見がまだ解決できていないということで、その部分については大変申し訳ありません。検討するといって、放ってあるわけでは決してありません。

コピーの件は、いろいろとご意見をいただいている部分もありますので、本当にできるところから取り組んでいきたいと思います。

システムの更新についても、いろいろ意見を聞いてほしいというご意見がありましたので、こういった形で伺うかということも改めて館で考えて、また皆さんにご協力をいただきたいと思います。

今日は本当にありがとうございました。

利用者 システムの問題ですが、3回位区民を集めて意見交換をすればいいと思います。最初に説明、意見を聞き、再度詰めてということで、3回位聞いてください。

図書館 やり方については考えさせていただきます。

利用者 もう1点、細かいことですが、関町図書館のゴミ箱が撤去されたのです。区内全部でゴミ箱は全て撤去されていると思うのです。知っていますか。

外のゴミ箱はいたずら防止でというのは分かりますが、館内の小さいものは必ず

置いてください。人間活動には必ず必要ですから。なぜ全て撤去したのか。関町では上からの指示だと言っていました。

図書館 そういうことはありませんが、確認します。

小林氏 ありがとうございます。

私は、もっといい図書館にしようという熱意のある区民の方が、こんなにたくさんいらっしゃることを、今日初めて知りました。他の図書館に行けば、そこにはもっといらっしゃるだろうと思います。折りしも館長が、これを組織して、図書館を支える力にしようではないかというお話がありました。そういったものをしっかり組織して、私もその一員になりたいと思います。ボランティアでそういう活動をしたいと思っています。そう思っている方は相当いらっしゃるかもしれません。先程「連絡先をぜひ。」という話もありましたので、進めていきたいと思っています。

最後まで熱心にご討議いただきまして、ありがとうございます。これからもどうぞ図書館を愛好していただきたいと思います。また、いろいろなサービスを提供していくと思いますので、ご注目いただきたいと思います。

では、今日はこれで懇談会を終わらせていただきます。皆さんありがとうございました。

以上